

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2階)

事業所番号	2794100053		
法人名	株式会社 日光ハウジング		
事業所名	グループホームひかり天神橋		
所在地	大阪市北区長柄西2丁目12番19号		
自己評価作成日	平成29年4月3日	評価結果市町村受理日	平成29年7月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成29年4月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ひかり天神橋では、障害があっても、認知症になってもその人らしく、当たり前の普通の生活が送れるように支援をさせて頂いています。 毎日を安心して穏やかに過ごして頂けるようスタッフ一同 日々頑張っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は平成26年5月1日に開設された鉄筋コンクリート造り、4階建ての都市型グループホームで、1階に小規模多機能居宅介護が併設されている。グループホームは3ユニットで2階から4階部分にある。近くの淀川堤防や長柄公園は、日々の散歩コースである。春は桜のトンネルの下でお弁当を食べたり、夏は淀川の花火大会の観賞もホームから楽しめる環境にある。ホームの特徴は 理念の「障害があっても、認知症になってもその人らしく、当たり前の生活が送れるように支援します」を掲げ、業務の流れを作らず、利用者の希望に沿ったケアサービスに取り組んでいる。職員は毎日「行動実施表」を付けて自らスキルアップに努め、利用者個々を知った介護に力を入れている。管理者は地域に根差したグループホームを目指し、同業者へ声掛けをし地域社会に貢献するために力を合わせることに実践に取り組んでいる。地域の町会長から「介護について」の講和の依頼も受けている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員が意義を踏まえて共有し、同じ方向性に向かい日々実践して行ける様に努力させて頂いています。	事業所独自の理念をつくり掲示している。毎月の全体会議、フロア会議で理念をもとに話し合っ、確認し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご家族様、地域の方々からもご理解を頂き、地域などで行われている行事などへの参加、交流も年々増えております。	町会に加入している。利用者、職員は積極的に地域の一員として、地域の防災訓練、保育所との交流、地藏盆、盆踊りなどに参加し、年々交流の機会が増えつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での老人会・サロンなどへの参加、認知症などへの理解を深めて頂けるような取り組みなどもさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議開催時、ご家族様の参加人数も増え、貴重なご意見、色々な場面でのご協力を頂けるようになり、日々のサービスへの向上に役立てさせて頂いています。	運営推進会議は年6回開催してる。地域包括支援センター、家族、職員の参加で、事業所の運営、活動内容について報告され、参加者からの要望、助言などあり、双方向的な会議となっている。今後は参加予定者の確保が課題である。	運営推進会議は事業所の取り組み内容や改善点、課題を話し合ったり、事業所の理解と支援を得るための貴重な機会でもあるので、今後は参加者の確実な出席確保を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と連絡を取り合い、協力体制・関係を築かせて頂いています。	日常的に介護保険課や公的援助を必要とする利用者の業務的な連絡、相談で生活支援課に出向いたり、防災の件で地域課などと連絡を密にして、協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	4階建ての構造上、1階玄関は施錠をしておりましたが、29年4月より1階フロアーにて小規模多機能居宅介護事業所オープンに伴い日中は施錠も解除させて頂きオープンで開かれた事業所にさせて頂きます。	年間計画の中で拘束、虐待の研修を行っている。以前は建物の構造上、玄関は施錠していたが、小規模多機能居宅介護が併設されてから玄関は開錠している。館内は自由に各階に行き来できている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に職員とは事あるごとに議論を繰り返して話し合いの場を作り、勉強会・研修への参加なども行い取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部から講師を招いた講義、外部への研修ホームでの勉強会など色々な機会を活用して学んで実践出来る様、日々努力しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分に時間を掛け、双方が納得して契約させて頂いています。 入居後も色々なご相談などにも応じさせて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	色々なご意見を頂き、運営に反映させて頂いています。	家族の訪問は多く、訪問時には近況の話をしたり、書類閲覧をして頂き、気軽に要望、意見が出るように努めている。運営推進会議やホームの行事の手伝いなど積極的な協力があり、家族と職員の関係は話しやすい関係にある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度全体会議を開き、運営、体制作りに繋げる取り組みをさせて頂いています。	毎月の全体会議で運営、業務の内容について職員からの要望、意見を聞く機会がある。管理者自ら、職員とのコミュニケーションを図り、く若い職員からの意見、要望も出やすい明るい雰囲気がある。会社は職員の福利厚生にも力を入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者が職員がやりがいを持ち日々業務に取り組めるよう環境整備を整え職員からの意見も取り入れられるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の悩みや、力量などを把握し、その職員に合った研修への参加なども積極的に進める体制と環境に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所の枠を超え、他区、北区GH連絡会などへの繋がりを持ち、交流させて頂き、意見交換などもさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望時はもちろん、スタッフからの声も聞きながら、入居者様と話をしながら行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にはその方の状況を伝え、何か起きた場合などは電話・メールなどを活用し連絡を密に取っている。またひかり天神橋通信を話し信頼関係を築ける取り組みも行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	細目にご本人やご家族様との意見交換を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の声を聴き受け止め、一緒に方向性を考え暮らしを支援出来るように今後も取り組んで行きたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とのコミュニケーションも今まで以上に密に取りながら、一人ひとりのスタッフが自覚をもち、いい関係づくりを続けて行けるように努めていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の体調などへの配慮はもちろん、外出など行える環境作りを続けて行きたい。	入居前の近所の方や 趣味仲間、昔の仕事関係の方の訪問者がある。各ユニット内には自由に使える電話の子機を2台設置しており、馴染みの人との電話の取次ぎの支援や墓参り、美容院、馴染みの商店街への買い物などの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	観てみないふりなどをせず、スタッフが間に入る関わりをし、入居者様同士の関係作りをこれからも支援していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ひかり天神橋通信などを活用し、これかも活用していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居相談や面談の中で入居者様の希望、意向を聞き取り、入居前後の生活が大きな変化とならない様取り組んでいる。また、入居前に関わりのある方(CM、介護職員)や家族様からも出来る限り協力頂き情報提供をいただいている。	入居時の面談やアセスメントによる利用者の生活歴や暮らし方の希望、意向を把握して、日常の個々の言葉、行動を見ながら、本人の意思表示を大切に、その人らしく暮らし続けられるよう職員間で共有している。困難な場合は家族の協力も得ながら、本人の視点にたって検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に入居者様や家族様から生活歴や現在の生活の様子を伺う様にしている。契約後に担当CMへ情報提供を依頼して暮らしの把握に努めている。可能であれば自宅の環境を確認し居室の環境を近づけるに考慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの過ごし方を尊重し、共に生活を過ごす中で心身状態の変化を観察し出来ない部分を職員がお手伝いさせて頂く様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日時調整し可能であれば入居者様・家族様・介護職員でカンファレンスを実施しており、できなければ個別で話し合いの機会を持っている。各居室に担当職員を配置し、その職員を中心にきめ細やかなところにも支援ができるように努めている。	本人、家族の要望、希望に沿えるよう職員とカンファレンスを行っている。居室担当者制をとり、毎日記入している「行動実施表」からの気づきや情報などを確認し、関係者でモニタリングして介護計画を作成している。状況変化があれば、即計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は介護記録に記入している。ケアプランの実施状況・評価を行動実施表に記入している。その記録とモニタリング・アセスメントを実施してケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・家族様の状況やニーズの把握をし出来る限り対応するように努めている。入居時の荷物の運搬・通院や外出時の送迎や付き添い等。また趣味活動の一環としてボランティア(傾聴・体操)の導入やおやつくらぶを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターと連携し、地域資源との連携構築に取り組んでいる。北区防災パートナーへ登録し、災害時に緊急対策として地域の一時避難所として開放予定。消防による避難訓練を年2回実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の状況や希望に沿って、これまでのかかりつけ医で継続する方と協力医療機関（内科・歯科）へ移行する方がおられる。また必要に応じて専門外来（整形・耳鼻咽喉科・眼科・皮膚科等）への受診を支援している。	かかりつけ医は利用者、家族の同意を得て協力医療機関をかかりつけ医としている。状況によりこれまでの専門医療機関の受信の支援も行っている。内科、精神科は月2回、歯科は週1回の定期的受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週2回来訪していただき、入居者様の健康管理を行っている。その中で入居者様の変化や状態を把握し、適時報告・指示を下さっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際には入居者様の情報の引継ぎを口頭または書面（介護サマリー）で行っている。入院中は面会に伺い洗濯物を持ち帰り病棟看護師の方から病状説明を聞くようにし、家族様とも連絡を取り、カンファレンスにお同席させて頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や看取りの指針を説明させて頂いている。意向に変更が生じる事もある為家族様と連絡を密にすると共に敵宣カンファレンスを行い、情報の共有・意向を再確認・チームでの支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた対応指針を明文化し、職員は研修、カンファレンスを行い、早い段階から家族に説明を行っている。医療機関、職員の協力体制も整えられている。近年、重度化であった利用者の方が現在、元気に過ごされている事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時には状態確認して主治医へオンコールを行い、報告・指示を仰ぎ救急搬送または受診の対応や往診対応を行っています。消防による救急救命講義を実施し、定期的にも実施予定を検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防犯による避難訓練を年2回実施している。災害時の避難・対応については全体会議等で検討を重ねており、当ホームのマニュアルを検討中である。4階倉庫に備蓄を準備しており北区防災パートナーへの登録等、地域との連携も構築している。	年に2回、消防署指導の避難訓練を実施している。自動火災通報装置、スプリンクラーなど防火、防災設備の設置、備蓄の準備もある。災害時に近隣の要介護者の避難所として受け入れの用意もある。現在、詳細なマニュアルを作成中である。	高齢者は自力での避難が難しいだけに事が起これば犠牲者が多く出る。高齢者を職員一人で素早く避難、誘導するのは難しいので、日頃から各種災害の訓練を積み重ね、防災対策の充実強化を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った声掛けなど、又プライバシーを確保する為に扉などにのうん恵右嫌れんやカーテンなども使用しています。	職員は研修や勉強会を通じて、利用者の人格を尊重した対応に心がけている。接遇で相手に不快感を与えている場面があれば、管理者と職員同士で注意をし合うようにしている。大事な書類は鍵のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時、その方が食べたい物、行きたい所など選択して頂けるように支援をさせて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時々々の状況を把握しながら、個々の要望を聞き支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望はもちろん、洋服を買い物へ行ったり、毛染め・カットなど男女問わず地域へ出かけるなどの支援をこれからも続けて行きたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備などはもちろん、包丁などもスタッフが見守り一緒に食事作りや後片付けなども行っています。	毎日の食材とメニューは外注サービスを利用し、職員が交代で調理をしている。利用者は個々の能力を活かしながら盛り付け、片付けなどを行っている。利用者の好みを取り入れた食事を提供し職員も一緒に和やかに食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の食べやすい形態で提供し、好む物などでバランスを考えながら提供、支援させて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに関する勉強会などで学び、必要性を十分に知りえた事で、毎食後行えるようになりました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人のその時に合った物品でその都度見直しをして行きながら排泄介助に努めています。	職員は排泄チェック表に時系列で記入されている個々のパターンを把握して、出来るだけトイレでの排泄が出来るように、少し早めのトイレ誘導を心がけた排泄支援に取り組んでいる。利用者の半数は布パンツ使用である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬には頼らず、手作り寒天・ホットパック・マッサージなど適度な運動なども取り入れながら普通排便に繋げています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日などは決めておらず、日々の体調を配慮しながら、リラックスして入って頂けるように入浴剤なども使用しながら、支援をさせて頂いています。	お風呂は個浴で2方向介助のできる移動浴槽となっている。入浴は一人ずつ、都度お湯の入れ替えをし、個々の好みの湯温で好きな時間帯で、自由な入浴を楽しんでいる。ゆず湯や入浴剤で入浴の変化を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じて適度な空調調整をし、居室だけではなく、リビングなどでも休んでいただけるような環境作りをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その人に合った服薬支援をしています。ひびの状態を観察しながら、薬の見直しも医師と相談しながら行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換だけではなく、日頃からドライブや買い物へいったりその人の生活を支える支援をさせて頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺への散歩や地域などで行われる盆踊りなどへの参加などへも出かけています。	天気の良い日には、近くの淀川堤防や長柄公園を散歩コースにしている。近隣のスーパーへ出かけて好きな買い物をする楽しみもある。外食やドライブも個々の希望に合わせて支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお持ちの方、職員が管理している方様々な方がおられます。それもご家族様のご理解があつての上で、買い物へ出かけられた場合は出来る限りご本人様に使用して頂けるような支援をさせて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話などは使用して頂けるようリビングへ設置し使用しやすい高さ場所に設置、また手紙のやり取りなどをされている入居者様もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた家具・飾りつけなど環境作りなどへの取り組みは日頃からさせて頂いています。	居間兼食堂はゆったりとして広く、採光も良く明るい。ソファ、テレビ、観葉植物、娯楽雑誌など置き自由に利用できるようになっている。、畳のコーナーも設置されて居心地よく寛げる空間となっている。壁には行事写真や利用者作品のぬり絵など貼っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごされる方が多く、入居者様同士がお互いの居室で過ごされて居たり、それぞれの嗜好品などを持ち込まれていてそれぞれの方に合った空間作りをさせて頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ち込まれていらっしゃる方が多くご本人希望の方、ご家族様の意向も相談しながら居心地よく過ごして頂けるようにさせて頂いています。	各居室にはロッカー、エアコン 防災カーテンが設置されている。利用者は使い慣れた整理タンス、置物、テレビ、仏壇など持ち込み、それぞれ自分の居室として寛げるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人の状態・状況を配慮した上で個々の残存機能を活かせる環境作りをスタッフが相談しながら工夫させて頂いています。		